9月議会定例会

9月議会定例会は、9月4日から20日までの15日間の会期で開催されました。

一般質問には9名が登壇し、計画が見直しとなった給食施設やごみ処理施設、また8月と9月に二度発令されたJアラートに関連した災害や観光、下水道、行政区問題などで村の考えをただしました。

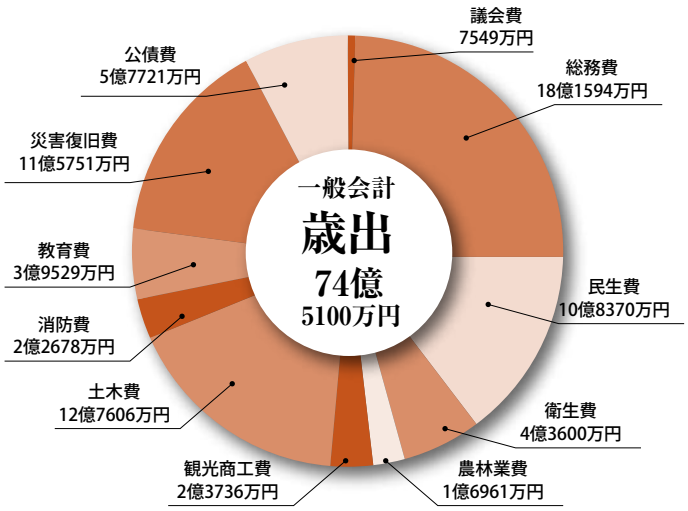
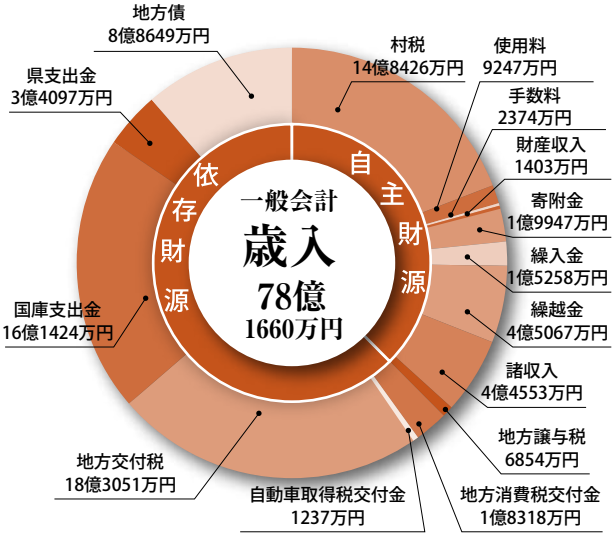
議案では陳情書が採択された飯森区の農道の村道認定や、移住・交流・集落支援事業としての「ふるさとテレワーク推進事業」、森上団地の耐震工事などを含む5800万円の追加補正などが可決されました。

9月定例会は決算議会とも呼ばれ、平成28年度の一般会計と5つの特別会計の決算審査特別委員会を設置し、5日間に及ぶ集中審議の結果、原案どおり認定しました。

一般会計歳入決算額は78億1660万6千円、歳出決算額は74億5100万9千円で、歳入歳出差引額は3億6559万6千円となりました。実質収支額は3億2527万7千円で、財政調整基金に積立てた額は2億8000万円です。

歳入の主なもののうち村税の村民税が調定額、収入済額ともに前年を上回り、加えて収納率も向上したため収入済額は3169万円の増となりましたが、固定資産税が前年を下回ったため、全体では717万5千円(0・5%)微増の14億8426万5千円になりました。大きく減少したのは特別交付税で、前年比58・4%減の2億1130万2千円となり、普通交付税を含めた地方交付税全体では13・8%減の18億3051万5千円となりました。

また歳出では、震災復興村営住宅に4億8954万1千円、銀嶺国体開催に伴う競技会場費に3億9753万7千円、庁舎等耐震改修に1億1880万円など、建設事業に前年度比9億2098万6千円増の13億2315万2千円、嘱託職員の雇用形態の変更や職員の給与改定により人件費が1億7994万円増の8億9862万5千円、一昨年の極端な雪不足と比べ、昨年は降雪が多かったことで除雪費が前年比1億5924万2千円増となっています。逆に大きく減少したのは、災害廃棄物処理経費が5億6293万1千円減となった物件費で、前年度比6億3718万9千円減の8億3520万4千円となっています。

震災復興事業が一段落
30年ぶり3回目の国体開催

平成28年度　一般会計決算